

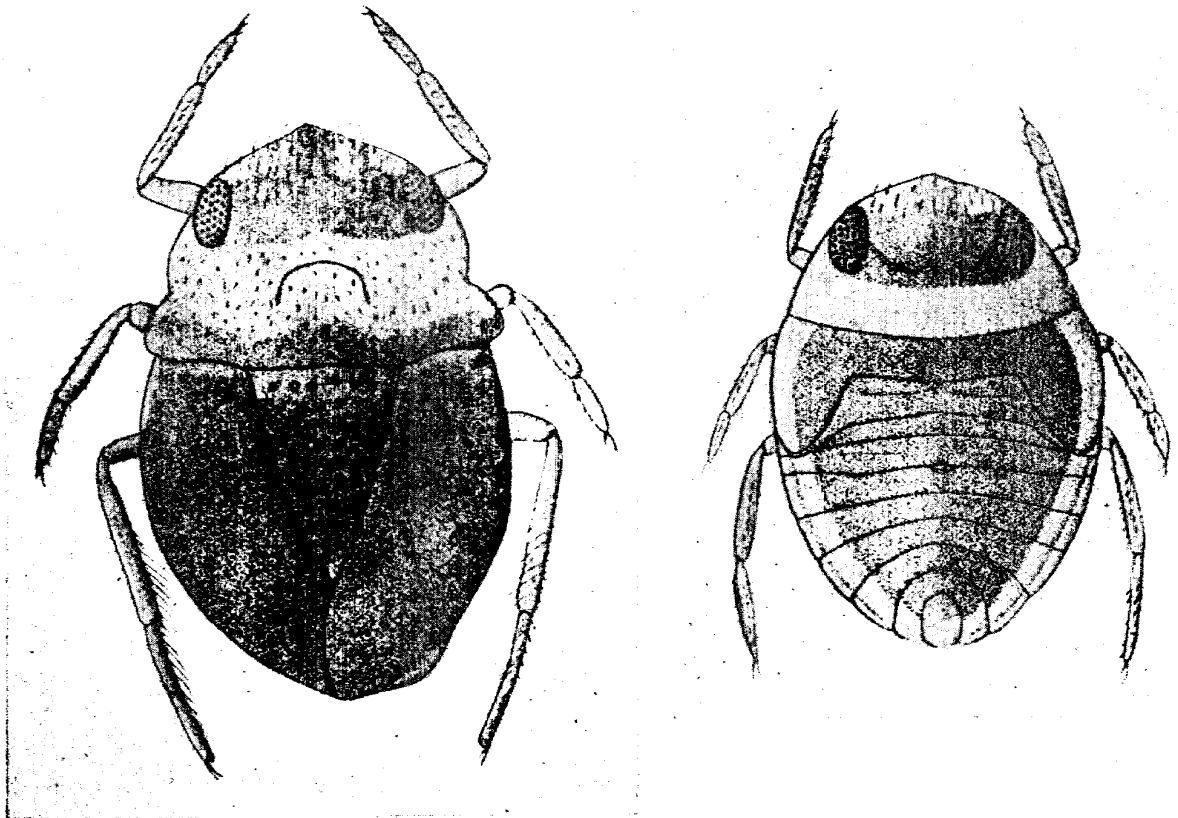
## 抄 録

## 珍しい環節結構を示す水生異相翅目昆蟲

ESAKI, T. and CHINA, W.E. 1927, 31st Dec. A new family of aquatic Heteroptera. Transact. Entomol. Soc. London, vol. 75, Pt. 2, pp. 279-295. 10 figs in text.

1859 STAL 氏が *Helotrephes* と云ふ頭と前胸との間に有るか無いかわからぬ位な縫合線の有る新屬の水生昆蟲を記載した。其後四種程追加されたが、屬の分布は支那、フィリッピン、ビルマ、スマトラ、セレベス及マダガスカルである。1918 BERGROTH 氏は此屬では頭は蜘蛛類 Arachnida の様に胸と癒合して頭胸部を作つて居るので、自由に運動出来ぬと云つた位である。本屬は今までマツモムシ科 Notonectidae に編入し、*Plea* 屬の近くに置かれて居た。

然るに C. CHRISTY 博士指揮下に行はれた英國博物館の Tanganyika 探檢に險し、*Helotrephes* に似た二新屬の水生昆蟲が知られた。共に彼に比べると體が多少扁くなつて居り、成體では頭と前胸との間に名残の縫合線さへも消失して了つて居るのである。江崎悌三及 CHINA の兩氏は此に *Idiocoris* 及 *Paskia* の



挿圖は *Idiocoris lithophilus* ESAKI et CHINA, 1927 の歩蟬(眼の間の後方に縫合線がづれて出て居るものと成體の雌蟲(前記の線無きもの)を示す。

新名を命ぜられた。面白いことには *Idiocoris* の方では歩蛹には *Helotrephes* の成體に見ると同じ縫合線が存在する。

此の珍奇な水生昆蟲三屬は Metamerism の面白い點に於て共通なばかりでなく、雄蟲の Genital segment が非常に不均整になつて居り、跗が 1-1-2 の節型であるので、一括して新科 Helotrephidae を建ててある。尙ほ著者等は生態及系統論をも發表して居られるが、抄者の興味は其所に無いので、茲には紹介しない。

(岸田久吉抄)

## 臭液を出す直翅類

HINGSTON, M. R. W. G.—1927, 18th July. The liquid-squirting habit of Oriental Grass-hoppers. Transact. Entomol. Soc. London, vol. 75, Pt. 1, pp. 65-68, 1 pl.

ヒングスン氏は印度に於て、四種のイナゴ(バッタ)科が其の體から液を噴出する習性あることを觀察して居る。野外觀察だけではあるけれ共、面白い事柄と云ふ點では誰も疑ふまい。

1. *Poecilocerus pictus* FABRICIUS. 此は色が華美である。能く *Calotropis gigantea* と云ふタウワタ科植物の葉上にとまつて、それを食つて居る。此色や習性から見ると鳥類にいとらはれる動物らしい。此蟲は歩蛹も成體も惡臭ある液體を噴出する。歩蛹の脊の腹部第一及第二兩節間に孔があつて、何か刺戟を受けると急激に5糎以上も液體を強く上方に射出する。成體は歩蛹よりも尙ほ一層毒々しいまでに美しくなつて居るが、同じ位置に液孔があつて分泌をする。併し、翅が延びて居るので上に射出するわけに行かず、液は後翅と腹との間に滲えられてから、左右兩側へ漏れ出て、粘性ある泡球となつて居る。太つて居り、飛翔も跳躍も巧みでない種類であるから、不快な臭氣ある液に依つて鳥の難を避けようと云ふのであらう。

2. *Typhoptera donovani* DONNADIEUX. 此蟲は體が大きく、黒味勝ちであるが、胸部と前翅には黄斑があつてけばけばしい。垣根などに居るが、鈍重なもので、危難に遭ふとバタツと落ちて此を避ける。夜間は存外活潑になり、サボテンを食害する。液孔は 1) 前胸背に一對、2) 前翅の脈に數ヶ所、3) 前肢の跗に一ヶ所、4) 中肢の基腿兩節間及跗に各一ヶ所、5) 後肢の基腿兩節間及跗に各一ヶ所存在する。最も激しく液體を噴出するのは前胸背のもので、液は往々十糎の高さまで噴出されるが、翅脈のは滲出すると云ふ程度に過ぎない。矢張鳥の害を避けるに役立つかと云ふ。

3. *Aularches miliaris* LINNAEUS. 十月頃ビルマの海岸地方の叢に多く居る、色美しく、鈍重な種類である。雄も雌も手づかみにすると胸部で音を出す。高くないが、鋭い警愕をあらはす音である。液體の分泌は壓力を加へて起るの